

2021（令和 3）年度

目白大学短期大学部外部評価委員会 報告書

2021 年 12 月 11 日

目白大学短期大学部

プログラム

1. 開会
2. 学長挨拶
3. 出席者自己紹介
4. 議事進行
5. 閉会

外部評価委員会委員

敬称略、2021年12月11日現在

氏名	所属・肩書	*1
吉井 隆宏	学校法人武蔵野大学附属千代田高等学院 進路指導部長 学年主任 英語科主任	1号
高橋 広和	叡明高等学校 進路指導部長	1号
伊藤 洋明	一般財団法人私学研修福祉会 アルカディア市ヶ谷 事務局長	2号
東 健司	有限会社キャトル 代表取締役社長	2号
友田 和弥	社会福祉法人三篠会「神楽坂」 施設長	3号
矢口 雅子	目白大学短期大学部校友会 会長	4号
蛸名 勝之	一般社団法人東京都新宿区歯科医師会 会長	5号

*1 目白大学短期大学部外部評価委員会規程第3条の号に合致した者

令和3年度 目白大学短期大学部外部評価委員会 議事概要

【開催概要】

開催日	2021（令和3）年12月11日（土）	
時間	14：00～15：30	
形式	Zoom ミーティングによる遠隔会議	
外部評価委員 出席者	吉井 隆宏	大学・高等学校等の教育機関の教職員
	伊藤 洋明	本学卒業生が勤務する企業等の関係者
	矢口 雅子	本学卒業生
目白大学短期大学部 出席者	油谷 純子	学長
	山田 隆文	副学長兼歯科衛生学科長代行（司会進行）
	小松 由美	特命学長補佐
	伊藤 浩正	製菓学科長
	上岡 史郎	ビジネス社会学科長
	常松 玲子	学務副部長（教務担当）
	細川 裕子	学務副部長（進路担当）
	笠井 俊秀	大学事務局長
	本勝 公二郎	大学企画室 課長
	笹川 裕太	大学企画室（事務局担当）

*欠席者（4名）からは、事前に別途書面にて回答を頂いている。

【議 題】

1. 開会

油谷学長より、コロナ禍での本学の状況について説明があり、忌憚のない意見をいただきたいとの説明があった。続いて、外部評価委員の皆様より、名簿順に自己紹介をいただき、次に、大学側出席者の自己紹介を行った。

2. 2019年度自己点検評価報告書について

「教育」「研究」「学生指導」「社会貢献」「組織マネジメント」「サポート事業部門」「短期大学部運営全体」の分野を中心に、事前に書面で回答のあった内容を読み上げた後、外部評価委員に意見・質問を求めた。

(1) 教育について

～委員からの評価・意見～

- ・遠隔授業について各大学は苦勞していると伺っている。計画書及び報告書を見る限り、目白大学短期大学部は順調にいらっていたのではないか。
- ・オンライン授業を滞りなく行ったことは先生方の努力の賜物である。また、事業計画書に「アクティブラーニング」が記載されていることが非常に好ましい。高校生の中には「アクティブラーニング」をしているかどうかで大学を選ぶ生徒もいる。
- ・遠隔授業は対面と違って質問がしやすいと学生から聞いている。アクティブラーニングを実践している短大は少ないので、先生方の努力はとても評価できる。

《ご意見を受けての補足説明》

- ・昨年度は不慣れな為、苦勞したが、今年度はパソコン（情報機器）のスキルが上がってきていると実感した。企業がどの程度のレベルを期待しているのか心配している。今年度の授業は、製菓学科と歯科衛生学科は遠隔日が週一回であり、ビジネス社会学科は対面が週二回であった。教員と学生の距離が近いという感覚が欠けるところがあったように感じた。一年生の保護者に向けて就職に関する保護者会を実施したが、参加者が昨年と比べて少なかった。原因として昨年度は遠隔授業が多く、学生、保護者に不安が大きかったことから参加率が高く、今年度は対面授業が多かった為、参加者が減少したのではないかと捉えている。今年度は遠隔授業で質問がしやすく、対面授業で学生と実際に話すことができた。しかしながら経済的な面でパソコンを購入できないという学生もおり、タブレットの貸し出しもしているが、スマートフォンで授業を受ける学生がいたことが悩ましい点であった。次年度においては、第六波に対応できる授業の形を検討している。対面授業が増えていくが、遠隔授業と対面授業の割合も検討していきたい。

(2) 「就職」について

～委員からの評価・意見～

- ・コロナ禍により採用はかなり厳しかったが、退職者も多かった為、新たな採用を増やしている。本学にも求人募集をおこなった。

《本学側から委員への質問》

- ①高校生にとって対面授業の大切さはどのように感じているか。また、遠隔授業の多かった学生とそれより前の学生とで違いはあったか、短大としてこのような状況の中で指導しておいた方がいいことがあるか。
⇒・高校生はリアルでのキャンパスライフに憧れている面が多くある。また、短期大学自体が大学と専門学校の間のようなイメージがありメリットが見えにくい状況である。目白大学短期大学部では手厚い指導というメリットを生かす為にリアルなキャンパスライフを送ることが重要ではないか。

⇒・企業の受け入れ側としては、ビジネスマナーが指導できていれば問題ないと感じている。本学卒業生は学びへの意欲は高いとの報告も受けている。自分の子供(大学生と高校3年生)を見ているとオンラインでの影響は少ないのではないかと感じた。友人ができないという部分には影響はある。就職についてはオンラインであるかどうかの差はないと感じている。

②就職受け入れ側からみると短期大学部はどのような位置づけか。

⇒・専門学校の2年と短期大学部の2年は就職に関していえば入ってから伸びる部分が多い為、さほど変わらないという印象がある。四年制大学と比べると年齢的にも2年間の差があるため、そちらは違いを感じる。

(3) 「学生指導」について

～委員からの評価・意見～

- ・高校から見たときにブランドイメージが大切であり、学生指導はとても重要である。「目白学園」として見たときには大学の韓国語学科や目白研心のチアリーディング部が有名であり、良い印象がある。また、立地に関しても良く、学生の素行も含めて良い印象である。
- ・様々な場面で卒業生の話を伺うが、目白の卒業生は服装や態度がきちんとしているという話が多い。学生指導がいきわたっている証拠であり、卒業生としても鼻が高い。オンラインの状況になっても個別に指導しているおかげと思う。しかしながら学生課を見てみると学生と職員の数が少ない事に不安を感じている。

《ご意見を受けての補足説明》

- ・目白大生の良いところは明るくて素直なところであり、就職先企業アンケートでも評価されている。少人数で担任制をしている為、密に指導ができるところが役に立っている。
- ・学生相談で大学に来ること自体、ハードルが高いという学生もいるので、遠隔での学生相談も良い効果があるのではないかと感じている。

《本学側から委員への質問》

- ・「育てて送り出す」という特色のもと、距離の近い指導をしているが反面、自立については心配を感じる部分がある。自分を律する「自律」と経済的な「自立」を目標としている。高校教員の見解からの意見と就職受け入れ先の意見をお聞きしたい。
⇒・自立については、高校でも年々失われてきたように感じている。きめ細かい指導をしつつ自立促す教育は難しいところではある。短大を目指す生徒の多くは保護者が長時間働いている場合が多い。そのため、保護者目線では本学のようにきめ細かい指導を求める傾向があるように感じている。
- ・当社では、平成26年～平成31年までで10名の受け入れを行った。現在勤務しているのは5名であり、退職した5名のうち2名は入社後思い描いていた現場ではなか

ったとのことで早期に退職した。3名は結婚等の自主退職であった。勤務している5名は現場でそれぞれが成長している。全体的に目白の学生は真面目に頑張っていると感じている。

《ご意見を受けての補足説明》

- ・短期大学は細やかに指導ができるという利点がある。本学の学生は真面目で素直な部分はよいところであるが、一方で、自分で物事をきめていく強さに関して欠けるところがある。2年間という限られた時間の中でどのような教育をしていくか、また他大学や専門学校とどう差別化していくかが課題である。
- ・製菓学科の現2年生は昨年度全面遠隔授業であった為、対面での実習は実質1年生と一緒にいる。2年生が自信をもって就職していけるかが懸念材料である。就活についても状況を踏まえて指導している。また、実習がある学科に関しては特に対面授業は重要であると感じている。

(4) 「研究」「社会貢献」について

～委員からの評価・意見～

- ・一時期きめ細かい教員の指導が途絶えたという話題が上がった時期があったが、目白の伝統として教員が学生によりそうという部分がしっかりとっていて安心した。社会貢献においてはコロナが落ち着いたら卒業生をうまく利用してもらいたいと思う。

《本学側の補足説明》

- ・コロナ禍では社会貢献は難しかった為、これからやっていかないといけないと感じている。コロナの中でも何かできないか模索していきたい。短大と専門学校との違いとして、研究活動と社会貢献活動という部分に力を入れていきたい。
- ・かつては企業とも協働していたが、昨年一年間は接点が作れず企業の受け入れも難しかった。企業の状況も考慮していかなければならないと感じている。

《本学側から委員への質問》

- ・問題解決型のアクティブラーニングが重要であるが、本学ではそこまで進んではいない。高校では総合学習が充実してきており、かなりのアクティブラーニングを行っているのではないかと。短大では地域の問題を取り上げて行う授業形態が望まれているのではないかと。短大生のインターンシップにおいて期間を含めどのように考えているか。
⇒・主体的な授業の取り組みに関しては高校でもかなり求められている。メディアの情報で生徒、保護者からアクティブラーニングが求められることが多い。講義型の授業にも必要性はあるが、アクティブラーニングが求められることから学校として推進している。しかしながら、教員の特性でうまくいっていない場合も多々ある。高校の目線では短大・大学の方がアクティブラーニングができているように見える。

⇒・インターンシップに関しては専門学校も受け入れをしているが、1週間は少し短いように感じる。状況に応じて10日間や2週間、1か月間といった期間で行うこともある。企業側として賃金が発生するかしないかで受け入れが変わる。3か月の受け入れであれば賃金が発生するので、企業側も受け入れが慎重になる。サービス部門では3か月のインターンシップは比較的ある。

(5) 「組織マネジメント」「サポート事業部門」について

《本学側の補足説明》

・大学として校友会に対し、Wi-Fiの整備についてお礼を伝えた。当面、遠隔と対面を両立して授業を進めていくことになることから、学内でもリモートをすることもあるため、教育環境の整備を進めていきたい。18歳人口が減っていくことから、学園全体としても大学経営は大変厳しくなってくる。目白学園として短期大学部の需要はあると考えているので、地の利、教員組織を活用して存続させていきたい。

《本学側から委員への質問》

・将来を見据えて目白大学短期大学部がこういう風になってほしい、発展してほしいという希望・要望をお聞きしたい。

⇒・目白大学短期大学部が存続・発展していていることに感謝する。また、卒業生が学校を懐かしみ、また訪問したいと思える大学作りを期待する。

⇒・短期大学のメリットが見えにくくなっている現状で、目白大学短期大学部の強みをはっきりと明確化することが求められると思う。メリットが明確化していれば高校からも生徒に勧めやすい。立地の強みはあるので、それ以外の強みを明確化してほしい。

⇒・目白大学短期大学部のホームページで授業風景を公開しているが、少し長いような気がする。3分～5分くらいに纏めたら見やすくなるのではないかな。また、動画作成についても学生主体で作成した方がよいのではないかな。

(6) 「短期大学部運営全体」について

～委員からの評価・意見～

・ガバナンスについて、文部科学省がホームページで公表している内容に関しては私学行政課としては私学側についているので安心いただきたい。

・大学院卒業生の立場から目白大学には大変好感をもっている。目白学園の卒業生が自分の子供も入学させたいと思えるような良い流れを作って発展して行ってほしい。

・目白学園の卒業生の子供が入学するという流れがもっと発展すると嬉しい。校友会としても引き続き目白学園を応援していきたい。

《ご意見を受けての補足説明》

- ・ガバナンスについては理事会も心配しているところであるが、しっかりした教育で社会の動きに遅れないような人材の育成が必要だと感じている。

3. 閉会

予定時間を 30 分ほどオーバーしたが盛会となったことから、外部評価委員の皆様へ感謝を伝え、閉会した。

以上